

歴女がゆく

発見！私のイチ押し仏像 VOL. 5

市指定文化財

木造 不動明王立像

平安時代／下岩瀬薬師寺保存会



1

不動明王立像のほかにも本尊の薬師如来立像や大日如来坐像など仏像がたくさん並んでいて圧倒されます。

下岩瀬薬師寺保存会の中村さんが境内にある五輪塔の案内をしてくれました。



府指定文化財の石造五輪塔は建立年代が明らかなものの中では市内最古です

仏教では、古代インドの神々がいるいろいろな形で取り入れられています。その代表的な事例として、破壊を司るシバ神が、密教において大日如来の使者、不動明王として取り入れられていることがあげられます。

今回紹介する不動明王立像（写真①②）は、岩瀬薬師寺の本尊である薬師如来立像の脇侍として祀られています。像高は95・2センチあり、上半身が裸で、右手に宝剣を、左手に羂索（けんさく）を持って、火焰状（かえんじょう）の光背を背にして、岩を模した台座の上に立っています。髪は巻毛で、弁髪（べんぱう）を左肩に垂らしています。

普段は見る事ができない不動明王立像ですが8月8日（木）の本尊御開帳でご覧になれます。

仏像まめ知識 ⑤ 仏像の持ち物

仏の力を表現する仏像の持ち物は持物（じぶつ）と呼ばれます。持物は如来や菩薩、明王などそれぞれの仏像の特質を象徴するもので、仏像を見分ける重要な手がかりになります。これまでに紹介した仏像の持物としては、法輪や薬壺、蓮華などがありますが、他にも剣や金剛杵などの武器、水瓶、琵琶など種類は多岐に渡ります。



仏像ZOOM UP! +

平安初期までの不動明王像は、両目を見開き、唇の両端に牙を出す姿をしているが、薬師寺の像は左目を少し閉じて右目を開く天地眼で、下の歯で上唇を噛み、口を結び上下に牙を表す姿となっている。これは平安中期以降の不動明王の特徴を示す。いずれにしても邪悪や煩惱を破壊し衆生を教化するという明王の姿には迫力がある。



今月の歴女

笹井由貴さん

寺社を巡るのが好きで朱印を集めるのが楽しみです。河内長野にはたくさんの文化財があり、それぞれ違った魅力があるので足を運ぶのが楽しいです。貴重な文化財を身近に感じることができるのは、河内長野の大きな魅力ですね。



千早口駅から北へ徒歩約10分

※8月8日（木）の本尊御開帳日の公開は午後5時から7時まで

